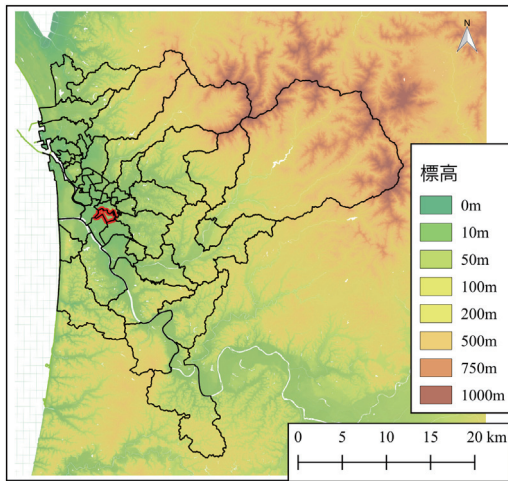


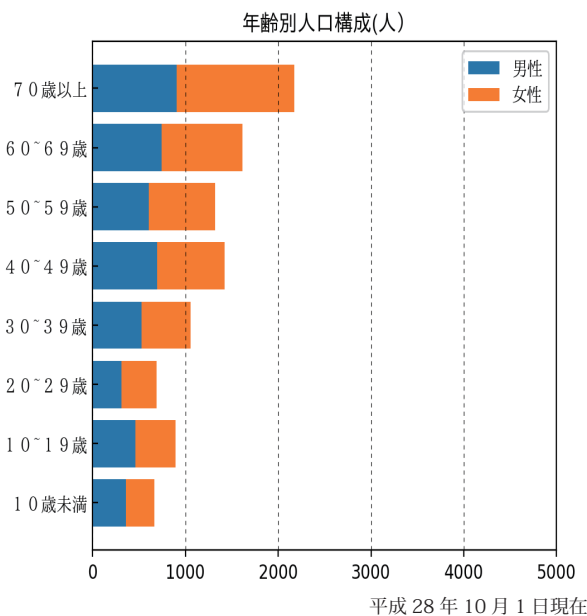
30：牛島小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	9,946 人
世帯数	4,194 世帯
65 歳以上人口	3,075 人
10 歳未満人口	664 人



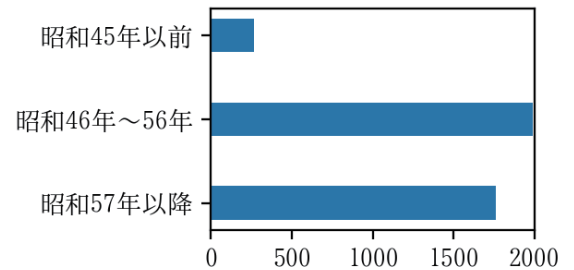
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	4016
非木造建物	348

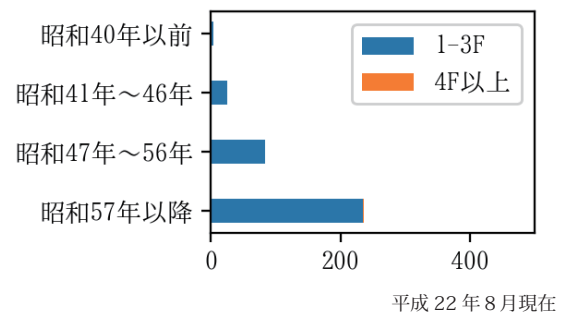
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	1,762
昭和46年～56年	1,991
昭和45年以前	263



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	235	2
昭和47年～56年	83	0
昭和41年～46年	25	0
昭和40年以前	3	0



自然的・社会的基本指標

秋田市街地の南側に位置している。学校区の北縁には一部に太平川がある。猿田川は学校区内を東西に流れた後、流れを南北に振り学校区の東縁の一部を形成している。平坦な地形となっている。地盤は沖積層が分布している。人口構成としては高年齢層になるほど徐々に構成比を高める。65 歳以上の高年齢者層は、全体の 31% である。建物の密集度は高く、昭和 57 年以降の建物は全体の 46% である。

3 自然災害に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 洪水

指定河川	猿田川	太平川	雄物川
浸水面積 (%)	57.1	1.0	97.5
最大浸水深 (m)	—	ランク 2	ランク 4

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	3	金照寺、檜山城南、城南
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	2	檜山城南町、城南

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震（どこにでも起こりうる直下の地震：M6.9）

平均震度	震度 6 強	
(計測震度)	(6.00)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	72	
液状化危険度ランク	5	
建物全壊率 (%)	7.2	

* 津波（秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合）

浸水面積 (%)	2	
最大浸水深 (m)	4.5	

4 災害時要配慮者に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 要支援者関連施設（収容施設のみ）

種別	施設数
高齢者支援	11
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	5

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	3
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	2

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標（平成 29 年 3 月現在）

■ 消防関連施設

消火栓数（箇所）	80
防火水槽（箇所）	5
消防車台数（台）	11
消防ポンプ数（台）	3
消防団員数（人）	70

■ 避難所／避難場所（別表参照）

災害種別	施設数
洪水	0
土砂災害	3
地震	3
津波	0
福祉避難所	0
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称／箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数（歯科を除く）	6
最寄りの救急告示病院	中通総合病院
自主防災組織数	5

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により学校区のほぼ全域で最大 10m 未満の浸水となることが想定されている。加えて、猿田川の氾濫によっても学校区の約 57%が浸水するほか、太平川の場合にも一部で浸水する。

金照寺山周辺を除いて、土砂災害の危険性は無い。

地震時の揺れやすさは学校区内ではほぼ同程度で変化は小さい。液状化の危険性は高い。津波により猿田川と JR 羽越線の交差点付近で浸水となる可能性がある。

防災上の課題と対策

牛島小学校区は、建物密集度が高くかつ、旧耐震木造建物の比率が高い。また、人口も稠密な地域である。大住小学校区との境界に JR 羽後牛島駅があり、隣接地には卸センターも位置していることから、災害時に交通機関の利用者や企業の従業員などの非居住者が学校区内に滞留することもあると考えられる。このような非居住者の避難や帰宅についても地域を含めた検討がなされることが必要である。

洪水時に利用できる指定避難施設は学校区内には無いことから、住民および事業所においては垂直避難の可能性を含めて自主的な避難計画を検討し、訓練等を通してその実効性を確認しておくことが望まれる。

建物の密集度が高いため、火災が発生した場合に延焼しやすいと考えられる。火災の被害を最小限に押さえるには、出火を防ぐことと初期消火が重要となる。出火防止や初期消火については住民の果たす役割が大きいことから、日頃

より防火／防災に関わる啓発／訓練等が望まれる。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
牛島小学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	4,975 人
牛島小学校（体育館）	○	x	○	○	x	x	417 人
牛島運動公園	x	x	○	○	x	x	2,780 人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
(該当なし)		

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

